

[博士論文審査要旨]

申請者：渡邊 亮

論文題目 医療機関におけるバランスト・スコアカードの活用状況と効果に関する実証研究

審査員 荒井 耕
尾畑 裕
挽 文子

本論文は、医療機関におけるバランスト・スコアカード（BSC）の活用状況とその効果を明らかにしようとした研究である。昨今、医療機関においても BSC の活用が進んでいることが伺えるが、実際の活用状況やその効果に関しては、これまで体系的に明らかにされてこなかった。こうした問題意識の下、本論文では先行研究のレビュー及び定性的・定量的な実証研究を行っている。

本論文の貢献は、以下の 2 点である。

独自の質問票を用いて定量的な調査を行ったことに加えて、マネジメント層に対する丹念なインタビューに基づいた定性的な調査も行い、医療機関における BSC の活用状況とその課題について詳細に明らかにしていることは高く評価できる。特に、医療機関では「BSC 大会」や各部門に対する「ヒアリング」の開催などの取り組みによって BSC 活用のモチベーションを高めている点や、そのような取り組みを通じて組織内のコミュニケーションが促進されている点を明らかにしたことは本研究の貢献であり、実務への示唆が期待される。

もう一つの貢献は、BSC 活用による効果についても定量的・定性的に検証し、具体的な効果の範囲と効果の促進要因を指摘したことである。日本の医療機関における BSC の導入に関する先行研究では、その導入効果に関する体系的な研究が見られなかったが、本研究によりその効果が実証されたことは重要な貢献である。

ただし、この研究にも問題点がないわけではない。まず独自の質問票を用いる場合、その信頼性・妥当性についてのより詳しい説明が必要である。また、BSC の効果の促進要因に関する定量分析による仮説検証は、その仮説導出と結果に対する解釈・考察をより丹念に行う必要がある。もっとも、この欠点は申請者の今後の研究で克服されていくべき問題であり、本研究の価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第 5 条第 1 項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。